

観光振興

沖縄の入域観光客数は、復帰の年（昭和47年）の44万人から、沖縄国際海洋博覧会が開催された昭和50年に156万人へと増大し、は156万人へと増大し、以降、道路、空港等社会資本の整備、航空会社等による沖縄キヤバンの展開等により増加を続け、平成10年には4百万人を突破し、平成15年には5百万人を超えるまでになりました。平成13年の米国における同時多発テロや平成23年の東日本大震災により一時的に減少しましたが、国内・海外航空路線の拡充等により令和元年には1,016万人と初の一千万人台を記録し、7年連続で過去最高を更新しました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行による旅行の自粛等により、令和2年は対前年比6割減の373万人となり、過去最大の減少率を記録し、令和3年には対前々年比7割減

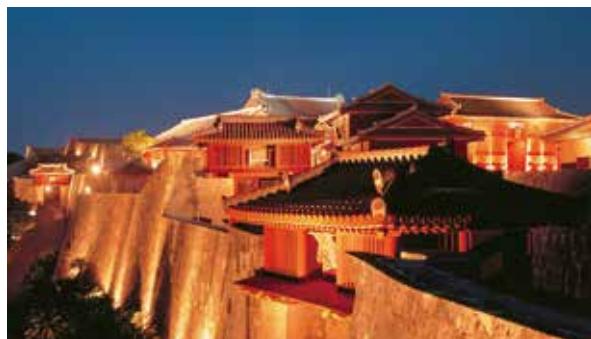
産業振興

の301万人となり、2年連続で前年を下回りました。

沖縄が目指す「持続的・安定的かつ質の高い世界水準の観光リゾート地形」を実現するためには、観光客数の増加のみならず、持続的発展を可能とする沖縄観光の質の向上に更に注力していく必要があります。具体的には、年間を通じた観光客の平準化・滞在日数の延伸・一人当たり消費額の増大を図るため、受入体制の強化（ハード・ソフト）、安全・安心・快適な観光地域づくり、観光人材の育成・確保、多様化するニーズへのきめ細やかな対応などの関連施策について、積極的に推進していく必要があります。



【美ら海水族館】



【首里城】



【世界自然遺産の西表島 ©OCVB】



【全島エイサー ©OCVB】



【観光客で賑わうビーチ ©OCVB】



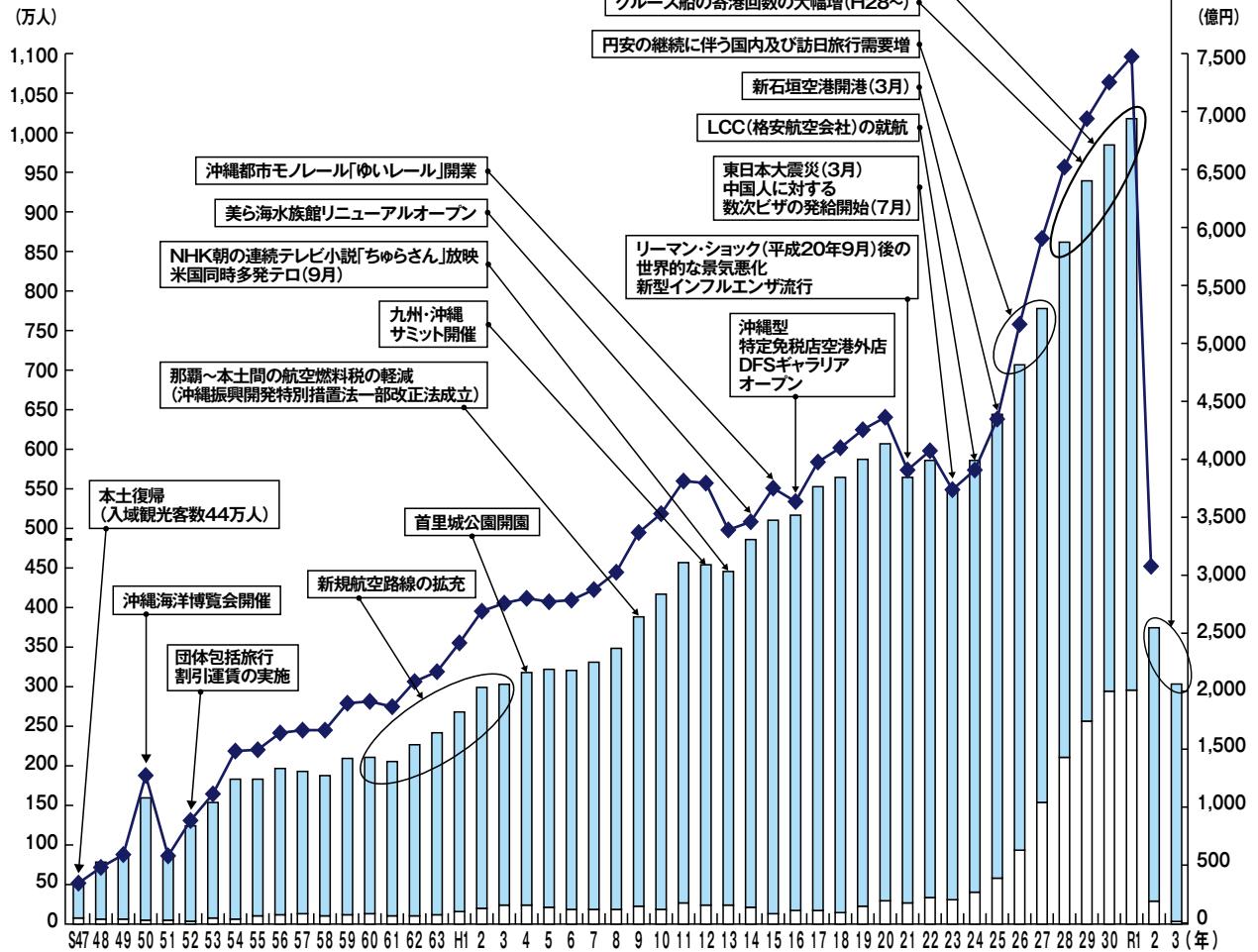
【慶良間諸島国立公園 ©OCVB】

観光振興



観光客数と観光収入の推移

□ 外国人 □ 国内客 □ 観光収入(右目盛)



観光客平均滞在日数及び1人当たり消費額の推移

区分	昭和47年	53年	58年	63年	平成5年	10年	15年	20年	25年	28年	29年	30年	令和元年	2年
平均滞在日数(日)	3.41	5.38	4.57	4.32	-	-	3.93	3.73	3.81	3.74	3.65	3.64	3.64	3.85
1人当たり消費額(円)	73,132	73,912	89,458	90,107	86,721	85,461	73,831	72,209	67,659	75,763	73,945	73,691	73,632	79,264
内訳(構成比%)														
宿泊費	15.9	30.8	29.7	31	30.9	30.1	37.7	32.5	26.3	30.3	30.6	31.3	31.0	35.1
県内交通費	11.4	17.1	18.1	16.8	17	14.3	9.1	10.8	14.6	13.7	13.5	13.3	12.7	12.0
土産・買物費	45	23.4	23.3	23.3	21.4	21.6	22.8	26.5	23.8	21.7	23.3	22.6	23.9	19.1
飲食費	5.9	17.5	17.6	17.9	18.1	20.7	18.9	19.6	22.6	22.3	21.2	21.7	22.0	22.3
娯楽・入場費	14.5	7.2	7.5	7.6	8.8	9.6	7.8	8.5	10.3	9.1	8.8	9.5	9.0	8.8
その他	7.3	4.1	3.9	3.5	3.8	3.7	3.6	2.1	2.4	2.9	2.5	1.5	1.4	2.6

※令和2年の1人当たり消費額は、令和2年1月～3月期、令和2年10～12月期の調査結果に基づき算出。

資料：沖縄県文化観光スポーツ部「観光要覧」、「令和2年の観光収入について」